

令和4年度 第5回社会教育委員会議 会議録

開催日時	令和5年2月2日 木曜日 13時30分から16時まで
開催場所	生涯学習センター・ラディアン ミーティングルーム1
出席者	森英夫教育長、蓮實茂夫委員長、久保田秀美副委員長、 関口金由紀委員、橋本由恵委員、稲葉通隆委員、三宅栄子委員、 中西美保委員、山内みどり委員
欠席者	なし
事務局	椎野教育部長、竹本課長代理、井上スポーツ推進班長、加藤生涯 学習班長、二見主任主事
その他	傍聴者1名

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 生涯学習推進計画について

(委員長)

事前のお目通ししていただいている32ページ以降について、ご意見を願
いしたい。

(委 員)

38ページの施設の数、どの時点の数なのか。

(事務局)

公共施設白書から引用した。発行年を調べて明記する。

(委員長)

全体を通して何かあるか。

(委 員)

まず目次。第5章が変わっているのはどうしてなのか。各施設の生涯学習の
展開が記載されると思っていた。推進計画の中で3章、4章を受けて、それぞ

れの施設においてどのように、具体的に、細かく取り組んでいるのかが分かるようになると思っていた。どの施設でどのような必要な取り組みを行うかがわからなくなっている。5章を作成するにあたって方向が変化した理由を知りたい。

(事務局)

年度当初にお示しした部分から、4章を作成している中で、各論を語るよりも、全体を書いた方がいいのではないかと思ひ、このような形とした。施設がこれから変わることがあるので、現状の施設の紹介の位置づけになった。

(委員長)

前回の会議でも確認してきた3章、4章について、ボリューム的にもう少し展開を記載するべきではないか。4章の推進体制も1ページでまとめられているが、この辺りに10年間の取り組んだ計画などが出てきて欲しいと感じる。

また、31ページの推進体制の図について、一般の町民はこの図のどこに位置づけられるのか。一般の町民へのアンケートは、実施は困難だが、一般町民に向けた生涯学習が基本にあると思うので、団体以外の多くの人たちに対しての方向性が現れるとよい。一般の町民に対する思いは第2章の4番以降のところでは触れられているが、町民に対してどうしていくかという目線をもう少し入れていただきたい。

(事務局)

例えば、生涯学習の情報提供や講座の開催はもちろん町民の方にはお知らせをしておき、それを発展的につなげていきたいという希望があれば、「こんなサークルがありますよ」と紹介させていただいている。町民個人の位置づけを明確にしながら、加えていければと思う。

(委員)

この計画が令和5年からスタートして、10年間これを根っこにしながら、具体的な政策を組んでいくこととなる。10年という歳月はとても長く、社会がまた大きく変わっていく気がする。途中の実施計画で、毎年振り返るという文言が入っている。限られた職員が、限られた時間のなかで、毎年これをしていくのは大変な労力が必要になることは承知しているのか。計画し、実施してみて、どうだったかを、根っこの部分に即しながら振り返りをしていっていただけたらありがたい。

(委員)

二宮町の生涯学習の現状というところで、アンケート結果が出ているが、最初にアンケートのまとめが出ているのは不要だと思う

他の施設が少なくなっているのは、その対象にアンケートが届かなかったということが十分あり得る。そのことを鑑みても、ラディアンが中心であるということをお知らせ載せる必要はないと思う。

(委員長)

この現状という部分について、アンケートを含めた何か欲しい。アンケートプラス主観的なものもあるのだろうが。

(委員)

13 ページの、アンケート調査からみる二宮町の生涯学習の現状というところで、ラディアンを使用する 40 団体と体育館を使用する 17 団体とあるので、ラディアンだけじゃないかと読み取れる。ラディアンを中心というのを取れば、誤解は少ないのではないかと。

(事務局)

最初に言ってしまうので、この部分は削除か見直しをしていく。

(委員)

このアンケートの書き方では、図書館の利用が非常に少なくなる。

(事務局)

団体としての利用に使われたということと、会議室等の場として施設を利用したのとは違う。結果として見えてこない。

(委員)

年度統計などを使い、ここに出てきている施設の利用の現状や推移のようなものを載せた方がいいのでは。

(事務局)

施設の利用の現状についてはデータを加える場所を考えながら、お示しい。

(委員)

23 ページの現状のまとめとしてできるといいのでは。アンケートの傾向がその下に書いてあるが、アンケートのまとめを再度やるのではなく、アンケート以外の部分を含めた現状としてまとめるべき。それぞれの設問の後に、傾向としてまとめられているので、それは残しておき、ここで町民の現状として総まとめにした方がいいのではないか。アンケートのボリュームが多いのもう少し要約しても良いと思う。

(委員)

町の団体でない人がどれだけ利用しているのか、数字で分かるものがあつたら良いと思う。さらに年齢層が分かって、それがこの10年間でどう変化したのかが分かるといい。一例として、図書館の電子化が進み、紙ベースで本を読むことが変わってきている。図書館の位置づけや、プールやテニスコートの利用者が、町民全体の人数に対してどのくらいなのか。メンテナンスをしていくにあたって、全体像が見えた方がより良いと思う。委員長が言うようにアンケートの部分を集約して、そこに町民レベル、団体でない人の意見も含められると、トータル的に町として公共施設や施策に対し、10年後状況が変わっていくなかで、どこに重きを置いていくのか、見えやすくなると思う。

(事務局)

年代別のデータは入手していないが利用者数の推移は、それぞれの施設で把握している。傾向を読み取ることはできるので、いただいた提案は反映できる。

(委員)

今後、年代とかデータを蓄積していけば、次の時に活かせる。情報が多くなりすぎるのは問題だが、施設を維持する、どこに予算をかける、という観点を見るときに、そういった情報がある方がいいと思う。

(委員)

スポーツ関係とすると、二宮のスポーツ協会に所属している団体にアンケートをとったのか。例えば、体育館をみるとスポーツ協会に入っている以外の方の利用が大変多いのではないか。アンケートの結果から、二宮町の一般の方の利用が反映されていないように感じる。一般の利用者が分かるように、二宮町の生涯学習の現状について入ってくると良い。一般の方の意見を反映させるのは難しいが、二宮町の生涯学習の現状とうたっているのも、そこがちょっと問題と思う。

(事務局)

施設の利用統計を用いて、仮に10年というスパンの傾向を、24ページでお示しすることで、23ページの分析を、整理して組み立てていく。

体育館なども、スポーツ協会に入っていない団体や個人もいるので、それを統計情報で示していく。

(委員)

アンケートの結果を抽出して、うまく並べる。一般的な人、いろんな団体が活動しているけれども、生涯学習課として町に関わるところの領域の範疇でまとめた推進計画にしてはどうか。一線を引くところがあるかなと思う。具体的に言うと、アンケートのところのボリュームを減らし、28ページのところをもう少し展開していけば、10年間の動向がクローズアップされてくると思う。

(委員)

そうなると町の現状を把握するためにこれをやったという言い方ではなく、一部分ではあるというニュアンスを伝える必要があるのではないか。

(事務局)

アンケートのボリュームを含めて、検討する。

(委員)

良いものができている。特に目標の部分が本当に良い。

(教育長)

策定スケジュールを見直さないと、厳しいのかなと思うのだがいかがか。

(委員長)

事務局がまとめているのを見ていたが、なかなか大変な作業ではある。これを急ぐ必要はないのかなと思いつつある。策定期日を先延ばしにするべき。

(事務局)

そうさせていただければ、次回3月23日の会議に、それ以降についてのスケジュールをお示しする形でよろしいか。

(委員)

策定はいつごろとなるのか。

(事務局)

最長で来年度いっぱい。令和5年度中には策定したい。

(委員)

修正をしていくのであれば、元号と西暦など年号の表記が統一されていなかったり、文章の折り返しの位置が気になるので、読むときに読みやすい文章として欲しい。

(委員長)

今、大磯には電子図書館があり、書籍をデータで借りられる。町の図書館の計画はわからないが、10年後を見たときに、そういった方向に進む可能性もある。図書館に限らず他の施設も方向性的なものが入れられたらイメージがつかめると思う。二宮の図書館も電子図書館化等の計画があり、そういった方向に進むのであれば記載してみてもどうか。

(事務局)

図書館に確認してみます。

(委員)

重点的な取り組みのところで、家庭の教育力の向上という文言が、この世代の人たちには重い感覚がある。教育力の向上というよりは子育ての支援というような文言の方が、子育てしているお母さんたちと実際会うなかで一致していると感じる。教育大綱でも、子どもが安心して学ぶということもあるが、家庭で子育てしている方の気持ちが安定していないと、子どもの気持ちが安定せず力を伸ばしていけない。「すべての教育の出発点の家庭や」というところに、家庭における子育て支援、みたいな形で、そして家庭では安定して、安心して過ごせるように支援して、そのうえで地域を作って子どもを育てていくというほうが、今の時代に合っている。これから子どもの数が減少していくなかで、子育て支援活動を教育の現場でも、子育てを応援するというスタンスをもって、教育のことを考えて欲しい。

(委員)

10ページの地域学校協働活動推進事業の、放課後子ども教室の目的は、これだけでは全くない。子どもが主役ということが感じられない文言だなと感じる。放課後子ども教室で地域の多様な大人たちと出会う場であるとか、そういったところで豊かな学びや遊びができる居場所である。子ども主体で考えられ

ている場だと思う。もう少し文言を考えていただけるといい。地域で子どもを育てるという気運を高めると言いながらも、結局学校でやっていたりするので。

(委員)

加えて、今のところでおっしゃる通りで、地域学校協働活動として「放課後子ども教室」しか実施していないように感じる。地域学校協働活動は、「こういう目的として、こんなことをしています」というのを入れた方がいい。これからどんどん広がっていくと思うので、放課後子ども教室だけではないことが伝わるようにすべき。

(事務局)

今言われたご指摘を基に修正する。

(事務局)

中学校では二宮町の移住を促進するプロジェクト、「カモン二宮プロジェクト」を二宮中と実施した。地域学校協働活動推進員が中心になって企画し、中学生が自主的に自分たちで考えながら、プレゼンした。聞いている方の生徒も応援するような感じで、二宮ってこんないいところもあったと再発見につながったし、生徒もそこまで考えられるのか、町への提案と変わらないと感じる高レベルのものがあつた。みんなで二宮を盛り上げていこうという一体感が生まれた。それを今後、それぞれの中学校でやるのではなく、中学校同士で連携することも考えられる広がりにつながるようなきっかけがスタートした。そういう部分も載せていきながら、発展していけるような文言につなげられるといい。

(委員)

まさにそれをそのまま書いていただきたい。推進活動があることで、子ども達が自分たちで地域の一員として町のことを考えていけるシステムが出来上がっているということを伝えて欲しい。

(委員長)

国と県の動向のところで、いろんな制度や政策が改定されているのが列挙されているが、その書き方を統一したほうがいい。平成30年の答申の後に令和2年の生涯学習分科会のものが抜けている。(2)の神奈川県動向でも、令和元年の神奈川教育ビジョンの一部改定が抜けている。

(事務局)

確認して対応する。

(委員長)

平成10年10月のともに生きる社会かながわ憲章の文面で、「定められました」が正しいのか「制定された」が正しいのか。

(事務局)

確認する。

(事務局)

多くの意見をいただいたので、一度整理してお示ししたいと思う。

(2) 社会教育委員研究による地域学校協働活動に関するアンケートについて

(委員長)

ようやく教員の皆さんに、地域学校協働活動に対するアンケートを実施することができた。大変貴重な資料になると思う。

(委員)

それぞれの学校で分母がちがう、パーセンテージが違うのに、総計で出してよいものか。

(委員)

そもそもこのアンケートのねらいは、何を見たいかだと思う。学校ごとに見たいのか、二宮町全校での傾向をみたいのか。

(委員)

町全体の傾向を見たい。

(委員)

学校別のデータを出す必要があるのか、

(委員)

出すか出さないかという議論があるほうがおかしい。アンケートをとった以上、そのまま素直に出した方がいいと思う。

(委員長)

先生が少ない学校では、特定されてしまう。学校長へフィードバックするぐらいで、公に広く公開することは、考えた方が良い。

(委員)

学校の先生方に、これをどこまで開示するとかは、お話ししたのか。

(事務局)

個人の特定につながらないかたちということでお答えいただいている。

(委員)

自分の学校のことは知ってもよいかもしれない。地域学校協働活動を進めていく上で、子ども達の現状や学校のニーズを知るために実施したと思う。次の活動に活かしていくことができればよい。

(委員)

アンケートをとった後の活用方法について、具体的に明記しているのか。

(委員長)

依頼と共に、どのように活用するかは書いてある。校長先生としては、どんなことが書いてあるのか知りたいと思う。

(委員)

これだけたくさん書いていただいているということが、先生方からのメッセージだと思う。これは生かさない失礼だと思う。

(委員長)

真面目なきちんとした意見を回答いただいております、様々な情報がある。

(委員)

それぞれの5校の状況が違いすぎる、活発なところもあれば、違うところもある。感じ方もおそらく違っている。お互いもっともっと交流して、どういうやり方をしているのかなどといった情報交換をして、活発にしていければよい。

(委員)

5校共通の課題として、浮彫にされている課題はあるので、それをシェアし

ていけることはたくさんあると思う。小学校、中学校、二宮町内で見えていかないと。各学校の色が出るのは当然であり、押しなべて二宮町の小学校、中学校、二宮町の学校という単位でみていくという視点で、このアンケートを受け止めたい。

(委員)

そここのところを抽出していかないと、せっかくアンケートをとっても、例えばある学校では「よいと思う」と思う先生が数字にすると9になりますが、この数字は大きい。そういう見方をしていきたい。にのみや学園になっていくわけですから、みんなが一つでも、歩みに差があると思うので、できるだけ手をとって同じような歩みをしていけたらと思う。

(委員長)

今回の結果は、校長会や会議で共有という形で使用するということにしたい。

(3) 社会教育・社会体育施設の条例等の改正について

非公開

(4) その他

- ①神奈川県社会教育委員連絡協議会の内容を参加委員より報告
- ②青少年指導員によるイベント (Vamos Live) の案内
- ③ふたみ記念館の特集のテレビ放映について説明

4.閉会